**２０２２年度全国壮年会連合定期総会議案への事前質問・意見とその回答**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2022年７月23日　全国壮年会連合役員会

〇質問（横浜戸塚教会：濱崎さん）

　－全国壮年会連合として、天城山荘の売却処分をどのように捉えているか？

　　⇒全国の教会・伝道所の代議員の３分の２以上の賛成があって決定されたことであり、壮年会連合としての意見を出すことは控えるべきであると考えます。

〇意見（横浜戸塚教会：濱崎さん）　議案３に対して、賛成の立場から

　―（１）東バプ・九バプの神学生支援を増すべきではないでしょうか？

　　　　　（理由　①現繰越金残高、②西南神学部の入学者状況、③上記２校の経営難）

　　⇒以下の理由から、現状のレベルを維持しながら、当該神学校の状況をみていきたいと考えます。

　　　両神学校の専攻科学生への奨学金額は、授業料の８割（西南の１種奨学金は２割の返還が必要で、８割が給付されていることに相当）に設定され、授業料が上がると奨学金額も比例して上げられています。

1. 奨学金会計の余裕は、貸借対照表の次年度繰越収支差額残高でみる限り、それほど大きくはありません。（2022年３月末現在、収支差額約4,500万円、次年度償却見込額約2,200万円であり、繰越金－償却見込額を剰余金とすると、約2,300万円、です。議案書21ページ参照）
2. 西南神学部入学者については、ここ数年のことだけでは判断はしにくいですし、神学校献金の推移と併せて注意深くみていきたいと思います。
3. 両神学校とも様々な工夫をされながら運営をされています。収入は授業料、教会・個人からの献金、後援会からの支援金、連合や連盟からの支援金等で成り立っています。授業科目や授業への参加の仕方なども工夫されながらバランスがとられていると判断しています。

　　（２）東バプ・九バプの経営支援　⇒前項③の回答を参照下さい。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上